

令和7年度 大阪市立生涯学習センター運営評価委員会 要旨

1 日時 令和7年7月14日(月) 午前10時00分～12時00分

2 場所 総合生涯学習センター 第1研修室

3 出席者

【委員】赤尾勝己委員(座長)、出相泰裕委員、岩槻知也委員、西本聡子委員、
筒井幹夫委員、有富恵子委員

【事務局】総合生涯学習センター：渡部所長、川崎副所長、竹内企画推進課長、
糸井事業主幹、管理係長、事業係長、
企画推進課主任、職員(記録)

阿倍野市民学習センター：高貫所長 難波市民学習センター：吉田所長

【オブザーバー】大阪市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習担当職員

4 次第

(1) 開会

(2) 出席者紹介

(3) 案件

令和6年度生涯学習センター事業の評価について

(4) その他

(5) 閉会

5 会議概要(主な発言等) *要旨を表すため一部省略、言い換え等を実施

◆案件 令和6年度生涯学習センター事業の評価について

分野1：情報収集・提供と学習相談

(委員) いちようネット(大阪市生涯学習情報提供システム)のアクセス数がどんどん増えているのはすごく大きな成果だと思う。いちようネットのアクセス数と生涯学習センターホームページのアクセス数との差が大きい、相関関係等はあるのか。

(事務局) 講座情報について、いちようネットは、大阪市各施設・機関など市全体で行われる情報が掲載されている。センターホームページはセンターの情報だけを発信しているので、より広く情報を得るために、いちようネットを活用されていると思われる。また、センターの講座にネットで参加申し込みをする場合は、いちようネットにアクセスして申し込んでいただく仕組みになっている。施設予約についても、大阪市の各施設の空室状況を調べることや、施設予約までできるのは、いちようネットだけなので、このあたりで差が出ていると考えられる。

(委員) 日本語の学習機会への問い合わせが非常に増えているということだが、そもそも問い合わせをするための情報にどのようにしてアクセスしているのかを聞きたい。

(事務局) きっちりした数字はないが、チラシの配布やホームページなどに学習情報を載せているので、そういったものを見る方もいらっしゃるだろうし、知人や会社などからの口伝で聞いてこられる方が多いのではないかと考えている。

(委員) いちようネットからの貸室予約について、「抽選会に来ないと希望の日時を予約できない」という声があるとのことだが、予約はできるが自分の希望の部屋は取れないという難しさみたいなものがあるのか。

(事務局) 貸室受付の仕組みとして、今、市民団体・グループは3か月前の1日から予約を受け付けているが、そのスタートに抽選会を開催しており、そこで「何月何日のどの部屋の午前」というふうに埋まっていく。いちようネットでの予約は、3か月前の7日がスタートになり、スタートの時点が違うという仕組みがあるため、いちようネットでは希望する部屋がすでに埋まっていて取れないというお声かと思われる。

(委員) いちようネットでは何時から予約開始とかで、みなさん予約を取ろうと思って待ち構えていて、一斉にアクセスして、とれたり、とれなかったりという状況になっているのか。

(事務局) 殺到するような状態ではない。どうしてもこの部屋が取りたいという方は抽選会にご参加いただくか、抽選会に来られない方は、その日の午後1時から電話をかけていただくという仕組みになっている。

(委員) 抽選会と、その後にいちようネットでの予約という二段階になっているということだが、ネットだけに一本化できないのか？

(事務局) この仕組みについては、大阪市からの管理運営業務仕様書で1日に抽選会を行うことと示されている。

分野2: 現代的・社会的課題に関する学習機会の提供

(委員) 基礎レベル日本語教室は9コース実施しているが、これと、地域の識字・日本語教室はこういった関係性にあるのか。

(事務局) 日本に初めて来られた方など、日本語が話せない方については、基礎レベル日本語教室を受講していただき、ある程度、日常的に何とか会話ができるようになられたら、地域の識字・日本語教室に通っていただいている。

(委員) いきいきセミナーは 50 歳以上の聴覚障がい者を対象にしているとのことだが、視覚障がい者対象の事業については、いかがか。

(事務局) 視覚障がい者対象事業については、教育委員会が団体に委託されて、市民学習センターなどを使って事業を開催しておられる。

(委員) 教育委員会から情報提供をお願いしたい。何回くらい実施しているか？

(教育委員会) 教育委員会から、団体に委託をして、団体が持っている知識を活かして、講座を実施している。回数等は後日回答する。

(※後日回答: 2 教室計 13 回)

(委員) 地域の識字・日本語教室関係では、どこもボランティアが足りないということで大変だと思う。地域の識字・日本語教室などを見に行ったら、夜は大学生がきていた。最近はボランティア意識が高い学生も多いので、仮に案内が我々にきたら、私の授業で紹介する。いろいろ紹介すると学生は実際に行っているもので、多少なりとも我々も貢献できることがあるのではないかと思う。

オンライン事業について、オンラインでも交流ができる可能性もあるので、内容によってはブレイクアウトルーム等を使って交流を図ろうとか、あるいは、参加者が顔出ししたくないので交流は無しにしよう等の使い分けは、どのようなあんばいでやっているのか。

(事務局) センターで実施しているオンライン講座では、交流を行う事業は非常に少ないが、参加者にご了承をいただいた上で、基本的には顔出しをしてブレイクアウトルームでお話をしていただいている。聞くのが中心の講座では、顔を出さないで参加いただいている。

(委員) さまざまなニーズに対応しようとするのが難しいが、うまく知恵をだして現場の判断でやっていっていただきたいと思う。

(委員) オンライン事業は我々も一般市民の方に向けた講座を提供していて、本当にいろいろなニーズがある。我々としては、ぜひライブで参加いただき、講師とリアルタイムで質疑応答をしていただきたいと考えるが、オンデマンドで後からゆっくり視聴したいというニーズも最近すごく増えている。これまでの実施を通じて見えてきたこと等があれば、共有いただきたい。

(事務局) オンライン事業の課題のひとつとして、特に録画配信(オンデマンド)は、講師からNGをいただくことが最近増えている。著作権の関係や、自分の発した言葉が残ることをリスクとして捉えられる講師もおられる。他に、職員や参加者のスキルという点で、聞くだけで

ないものになるとハードルが上がるという課題はあり、センターも工夫しながら実施している。

(委員) オンラインではいろいろなニーズがあって、これにセンターが対応していることを本当にご苦労様と思う。大阪市生涯学習推進員協議会では、エルキューブ(交流の場)を 4 年前から会場とライブ配信で行っている。私は1回だけネットで参加したが、コロナで始めた頃は家でやると電波状況も良くなくてなかなか大変だった。今はうまくいくと思うが、やはり私は面と向かってというのを大事にしたいと思う。

(委員) 生きがいセミナーが2講座で、高齢者が生きがいをもって、参加していただく機会を提供しているということだが、高齢者は、なかなかSNSなどについていけないことがあるかと思う。SNS などが苦手な高齢者がセミナーに参加していただけるようなフォローの機会があるのか。

(事務局) 生きがいセミナーの広報ではチラシの配布やいちょう並木(生涯学習情報誌)への掲載を、ホームページ掲載とあわせて行っている。講座の内容は全部対面で、交流を大事にしている他、施設見学などの体験も組み込んでいる。

分野3:人材養成・研修

(委員) 生涯学習インストラクターバンクの紹介について、成立 68 件はどのような分野が多いのか。

(事務局) 年度ごとに変わるが、令和 6 年度は手品・マジックや、スマートフォンの操作、笑いヨガが多かった。他は手話、書道、幼児教育、ヨガ、健康関係、音楽等だった。

ちなみに紹介先では、老人福祉センターなどの施設から多くご依頼をいただいております、その他は地域の団体やグループ、生涯学習ルーム等からとなっている。

(委員) はぐくみネットコーディネーター研修の受講数が少ないということだが、原因はどのように分析しているのか。

(事務局) はぐくみネットコーディネーターも研修内容を毎年充実しているが、生涯学習推進員に比べるとかなり受講数は少ない。制度の違いとして、生涯学習推進員の委嘱にあたって、委嘱当初と、継続する場合は 3 年毎に受講が必要なので、毎年 300 人~400 人くらいの方が受講されている。一方、はぐくみネットコーディネーター研修は自由参加なので、興味関心を持たれたら見ていただくというものになっている。

はぐくみネットコーディネーターに教育委員会が委嘱状を送る際に研修案内を同封してもらうなど、広く周知する努力をしている。あわせて今年5月から、生涯学習推進員とは

はぐくみネットコーディネーター専用の LINE をはじめており、登録していただいた方には、いろいろな情報提供をして、より多くの方に研修を受講していただきたいと考えている。

また、生涯学習推進員の中には、はぐくみネットコーディネーターを兼ねている方もかなりおられ、そういった方は、はぐくみネットの受講数としてはカウントされていないが、実質、受講していただいていることとなる。

その他、はぐくみネットコーディネーターアンケートで、実践事例を知りたいというニーズが非常に多かったので、令和5年度から「教育コミュニティづくり実践交流会」を実施している。毎年、3校区くらいずつ発表していただき、発表資料をセンターホームページに掲載し、令和6年度は 3,000 件近く視聴数があった。

(委員) 私は、生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターを兼ねてはいない。生涯学習推進員とはぐくみネットはどう違うのか、私自身も疑問に思っているところがある。学校によって、一緒にやっているところも多いが、私の校区では、はぐくみネットの活動はそんなに活発ではない。

(委員) 今一度、はぐくみネットと生涯学習推進員の趣旨がどのように違うのか説明してほしい。

(事務局) 大きくは教育コミュニティづくりになるが、生涯学習推進員は小学校の特別教室等を活用して、さまざまな年代の方が参加できる地域に根差した生涯学習ルームを実施するというのが、ひとつの活動になっていて、はぐくみネットは、学校と地域・家庭の連携・協働をめざして、コーディネーターが、学校の教育内容の支援や、地域で教育的な取組み、新聞等での情報発信をしている。はぐくみネットは活動範囲が広くて、以前に実施したセンターの調査・研究事業でもはぐくみネットの活動を聞いたところ、何をしたいかわからない等のご意見もあったので、はぐくみネットコーディネーター研修をしっかりやっていかないといけないと考えている。

(委員) 生涯学習推進員とはぐくみネットコーディネーターの両方担うということの一つの大きな意味は、生涯学習ルームの資源を学校につなげることができるということ。その場合、学校側にどのようなニーズがあるかなど、学校とどのくらい意思疎通ができているかということが大事。国レベルの地域学校協働活動推進員は、コミュニティスクールの運営に関わる学校運営協議会の委員にもなると、そこで学校の議題もわかり、それに関わる地域の資源をつなぐという役割が果たせるようになる。また、学校と地域学校協働本部の心理的距離も近くなる。はぐくみネットコーディネーターも学校側のいろいろな委員を兼ねていただければ、意思疎通ができるようになる。学校側からしても、子どもが日ごろ学校ではできないような体験ができるし、保護者、学校の先生ではない地域の人と知り合えたりもする。コミュニティスクールと地域学校協働本部双方で一体的運用がなされ、うまく結

びつけば、いろいろな可能性が拡がると思う。せっかく両方あるので、可能性は限りなくあると思う。

いろいろ面白い取り組みをやっていて、地域と学校の両方にメリットがあるので、地道にやっていくことが大事。まずは両方を担っている方に活躍いただくということが大事だと思う。

(委員) 親力アップサポーター入門講座は、令和6年度で終了ということだが、その理由は何か。加えて、自主グループの活動は、どんな活動をしているのか。

(事務局) 親力アップサポーター入門講座については、大阪市が令和7年度から管理運営業務仕様書の中に入れられなかったため、終了することとなった。

自主グループの活動については、親力アップサポーター活用事業として「ほっこりサロン」を令和6年度は36講座実施した。例えば、絵本持ちより会や、発達障がい児の子育てについてのおしゃべり会など、各グループで関心のあるテーマが異なるので、毎月4講座くらい、グループが取り組む内容をセンターがサポートして実施している。

(教育委員会) 入門講座が終了となった理由は後日回答する。

(※後日回答:大阪市としては既存の自主グループの支援に力点を置く方向性とし、「子育てを支援するボランティアの活動支援」として再編した。)

分野4:企画開発とネットワーク

(委員) 大学・企業等との連携事業では本当にさまざまなプログラムを実施していて、素晴らしいと思う。私たちの独自事業においてはターゲティングが非常に難しい課題である。センターでは時代に応じたいろいろなテーマを掲げて講座設定をしているが、例えばターゲットを絞ったような講座展開を考えているとか、戦略的にこう実施しよう等の企画・計画があれば教えてほしい。連携事業の仕組みとして、例えば各大学、あるいはセンターからこういう講座を提供したいと提案するような方法か。

(事務局) テーマは双方で出し合って決めていくパターンの場合もある。

数としては少なかったが、特定の対象の方向けの講座もすることもある。例えば、専門機関の大阪市地域若者サポートステーションとの連携講座では、引きこもりなど課題を抱えた方向けに対象を絞りこんで実施した。

(事務局) ターゲットを絞るというよりはテーマを絞ることのほうが多い。阿倍野市民学習センターでは、健康福祉をテーマに掲げていることもあり、令和6年度、阿倍野区医師会と民間企業との連携で、認知症をテーマにした講座を行った。健康関係のことにご興味をお持ちの方がたくさんいらっしゃるということで、センターから声をかけて講座の実施に至っ

た事例のひとつである。

分野5:区や地域における生涯学習の支援

(委員) 防災学習プログラムは、かなり注目度が高くて、マスコミにも取り上げられているとのこと。今後もすごく重要になってくると思うが令和 6 年度実績数はダウンロードの件数も含めての数か。

(事務局)第 3 弾の 196 件はダウンロードの数。

(委員)「OSAKA 防災タイムアタック！」は西区で 2 年連続、利用した。1 年目は DVD を 2 コマ上映したが、子どもたちには 45 分くらいの DVD を 2 コマ上映だと集中するのが難しかったようだ。今年の 2 月には DVD とあともう 1 回は私達が口頭で 3 択クイズを出して、地域のレンジャーにも選んでもらうとか、防災体操とかを取り入れてやってみて、だいぶ興味をひいたと感じた。もし今年もやるとなったら、去年と同じではできないので、いろいろ工夫して考えなくてはと思っている。何かプラスアルファで楽しめる身近なものがあればもう少し利用も広がるのではないかと感じた。

(事務局)「OSAKA 防災タイムアタック！ーやさしいにほんごで BOSAIー」は、やさしい日本語を使っているので、子どもたちにも体験してもらえる教材になっている。ダウンロードや機材は必要だが、1 コース 15 分くらいでできるので、こちらも活用いただければと思う。また、地域の識字・日本語教室などにはセンター職員が出前講座として、行かせていただく事例もある。ご相談いただければ防災関係の講師もご紹介できると思う。

(委員) 私の地域で、この教材を使って PTA、青少年指導員と一緒に、地域の消防署にも来ていただいて、先ず青少年指導員がゲームをしたあと、立体的に例えば煙体験をするとかを実際にやった。この教材は面白いと思う。どのような教材があり、どのように使うかなど様々な情報を得て、いかに捉えるかということが大切だと思う。

(事務局)地域で必要なところだけ使っていただけるというのも、このプログラムの特徴なので、また活用いただければと思う。

分野 6:利用促進とサービス向上

(委員) 先ほどの管理運営業務仕様書の話にもあったのでなかなか難しいことと思うが、やはりオンラインでの予約のしやすさは、非常に大事だと思う。社会人の場合、朝の抽選会や昼間の電話は難しく、幅広い利用促進の観点からも、オンライン化は不可欠である。

あわせて、稼働率の面で、夜間において学生から学校が終わってから活動する場所を探しているというような問い合わせを受けることも多いのだが、例えば、「午前中はこう

いう使い方ができます」といったような形で、時間帯ごとにターゲットを意識したような宣伝の仕方も有効であるとする。

(事務局)特に広いお部屋(講堂や第1研修室)や、阿倍野・難波市民学習センターのスタジオでは、ターゲットを絞った PR に取り組んでいるが、さらに進めていきたい。

座長まとめ

分野2について、識字・日本語教室でボランティアが不足しているところがあるならば、大学生に広く周知をしていただきたい。

オンライン講座の良さを活かしていくということでは、各受講者のニーズに応じたあり方といったことをお願いできたらと思う。

分野3について、毎年、意見が出るが、はぐくみネットと生涯学習推進員との関係が中途半端であるということがどうしても否めないということなので、双方ともに充実していくことを再度申し上げておきたい。

分野5について、「OSAKA 防災タイムアタック！ーやさしいにほんごで BOSAIー」(第3弾)は非常によくできているということで、とてもうれしく思う。これにプラスアルファとして講師やこれを実演する方であるなどの付加価値をつけていく、そういうふうなあり方をお願いしたいと思う。

分野6について、利用促進については、3館で平均利用率 70%をめざして頑張っているということ。オンラインでの貸室予約を充実していただきたいということも付け加えておきたい。

最後になったが、第 77 回優良公民館表彰を受けたとのこと、おめでとうございます。(拍手)

令和7年度から、新たな指定管理者に一般財団法人大阪教育文化振興財団が選ばれたとのことで、今後、総合・阿倍野・難波の3館を充実していかれることを心からお祈りしたい。